

The Sakato News

DEMOLITION SITE REPORT Vol.201502

Edited and Published by SAKATO CO.,LTD.

314, Chigusacho, Hanamigawa-ku, Chiba 262-0012 tel.043-286-5400 fax.043-286-4187 info@sakato.jp www.sakato.jp

PACLER MAGNUM 1200

小割機 パクラ マグナム 1200

「増える0.45クラスのビル解体
オペ付のプロが選ぶ条件」

株式会社アキコ (埼玉県朝霞市 オペ付リース業)



THE NEXT WILL BE THE BEST

SAKATO



DEMOLITION SITE REPORT Vol.201502

増える0.45クラスのビル解体 オペ付のプロが選ぶ条件

株式会社アキコ様(埼玉県朝霞市 オペ付リース業)

代表取締役 國井 勝雄 様 (写真中央)

取締役営業部長 小坂 順二 様 (写真左)

埼玉県朝霞市を拠点としてオペ付リース業を営む。創業者の國井社長と社長の右腕の小坂部長。営業先は首都圏の大型解体現場。階上解体は特に多い。小割作業のみならず大割やカッターなど1次解体の施工も得意。解体機にこだわり自社修理工場で専門修理工が行う。(右はSAKATO営業の小堀容子)

当社は、東京都の練馬区にて回送業からスタートして創業50年になります。当時、回送業をしながら多くの解体業者の方が相互に機械の貸し借りをしているのを見ていました。そこで、「うちで解体機のレンタル業をして皆様に役に立ってもらおう」という発想が生まれ、解体機のレンタルをスタートしたのが始まりでした。その後、さらに発展する形でオペ付リース業を始め、お陰様で現在にまで至っております。

お客様のご要請にこたえる形でショベルを揃え、現在はミニクラス〜1.2m³クラスまで約80台所有し、各クラスの大割機・小割機・鉄骨カッター・ブレイカー等のアタッチメントを合計150台ほど揃えております。オペレーターも20名以上在籍し、お客様のニーズに合わせてオペ付で解体現場に出ていきます。主力クラスは0.7と0.45で、小旋回仕様や、現場で1台は必要なクレーン仕様を多く導入しています。また、近年はオペ付リースという時代ではなく、2次下請業者という形で現場に入ります。つまり施工業者の立場になったということです。お客様の信頼を得るためには、自社

の営業とオペレーターの技術に加えて、ショベル・アタッチメントの性能や安全性、耐久性も評価されます。

「多能なオペレーターが自慢」

主力の現場は、大手ゼネコン様から解体業者様が請け負っている現場です。これも当社の特長です。そこに対応するための当社の取り組みがいくつかあります。まずは、安全性の意識です。長年にわたり厳しい管理の下でやってきていますので、特に危険を伴う壁倒し作業に対しても、安全な施工方法がしっかりと身についています。次に、解体オペレーターの技術です。オペ付と言うと、小割やバケツのイメージが強いですが、当社ではミニショベルでの内装解体や、0.7での大割・カッター作業等幅広い技術を持ち合わせています。また、現場の段取り替えや予定の変更等を求められてくる事もたくさんありますが、そういう時こそ現場の進捗に合わせて協力的に対応する事がお客様からの評価にも大きくつながっていると思っています。こうした積極的



朝霞営業所。豊富なラインアップのショベルとアタッチメント。サカト製小割機バクラは0.25〜1.2m³クラスを取り揃えております。



揚重現場に向けて回送の準備。創業当時は回送業であり、現在もアキコの基本です。回送のみの対応もしております。



写真左：納入後13年経過のマグナム1650
写真右：昨年納入したマグナム1650



この2つの機械、外観上に大した違いはないが実は使用年数が12年以上も違う。
幾度のメンテナンスを重ねながらも新品時のツース形状や配列等を忠実に維持し、同時に亀裂
補修や大きな損傷も見当たらない。修理を統括している白波瀬工場長のこだわりが詰まっている。

な姿勢での取り組みが実を結び、おかげさまでお客様からの
リピートもいただき、ご指名のオペレーターも多数おります。

「パクラは都心のビル対応の丈夫さ」

最初にパクラを導入したのは、約25年前のSPAC80です。購
入のきっかけはお客様の評判でした。小割が主体でオペ付リ
ースをしていた長い期間ずっと使い続けてきた想いの詰まっ
た解体機で、丈夫で大がかりな修理はしたことがありません
でした。その後、増速バルブ装備のマグナム1650を導入した
際に引退しましたが、このSPAC80は今もヤード内にいつでも
使える状態で保管してあります。現在では、0.25～1.2クラス
用パクラを20台所有するまでとなりました。

パクラをはじめ機械を最善の状態に維持する。そのために修
理工場を自社で構え、専任の修理工がメンテナンスにあたっ
ています。いろいろな機械の修理をしている中で、部品交換
では対応できない修理も発生します。その際には修理方法を
自分で考えなくてはなりません。じっくりと解体機を見るの
です。そんな時に、解体機の色々なことも見えてきたり、ま
た現場でどんな使い方をしていたのか想像もつきます。とり
わけ稼働時間の長い、サカトのパクラについては修理を通じ
て気が付いたことがあります。それは「パクラの丈夫さ」で
す。パクラの一番の特徴と言えるでしょう。

基本的な修理は4～5か月に1回のツース摩耗補修のみ。工場長

に聞くと、現役で最も古いパクラは13年経つマグナム1650で、
まだ1回もメインシャフトとメインブッシュの交換はしてない
というのです。都心部の丈夫なビル解体現場での長期間の稼働
を考えて設計されたパクラだと実感しており、この実績には非
常に満足しています。

また、パクラのシリンダー構造が、他社機とは違います。ロッ
ドキャップ部のシールの数もパクラの方が多く、シール自体の
形状や素材も違います。そのためか、油漏れの頻度もパクラの
方が少ないのかもしれません。古いものも全て含めて20台ある
パクラの油漏れ修理は、年に2～3回です。他社の小割機と比べ
ると1/3の割合で済んでいます。このような見えないところにサ
カトのこだわりが見えるのです。とにかくパクラは故障が少な



1.2～1.6㎡兼用機マグナム3500、自社の修理工がツース交換実施。

いので、現場に出っぱなしで、修理工場に戻ってくることはほとんどありません。

勿論、現場でのオペレーターによるメンテナンスも十分にしています。毎朝の点検とグリスの実施は一日も欠かしていません。グリスは最大のメンテナンスと言うだけあり、部品も機械も長持ちします。また、使い方も工夫しており、小割の際は最後まで噛まずに、コンクリートが割れたらすぐ離すようにしています。こうすれば処理量も上がり、パクラの負担も減るので長持ちします。

「需要の高い0.45に、マグナム1200を増車」

さて、近年では、都心部特有の階上解体現場、それも狭小の現場が多くなっていますので、0.45の需要が高くなってきています。

そのため、0.45小割機の稼働率が高くなっているのですが、同時に修理トラブルの発生も目立つようになってきました。

今まで所有していた他社機の0.45用小割機に、メインシャフト周りのフレームに亀裂が発生したり、シールからの油漏れが頻繁に発生したり、こんな修理が最近、購入後2年くらいの製品から発生するようになりました。修理が増えて現場に出る時間が減ったり、大現場でアタッチメントが故障し交換作業が突発的に発生したら非常に困ります。施主からは苦情が来ますし、レッカーの手配や台車の手配やらが発生します。だから、丈夫なことは何よりも大事なのです。亀裂・油漏れの少ないパクラであれば、そういったトラブルもほとんどありません。ですから、特に揚重現場に入る時は、パクラを選定します。パクラは安くありませんが、購入費用の差額がこうした形で帰ってくるので、それ以上の購入メリットがあるわけです。



自社修理工場内での点検作業、出荷準備として稼働確認。

この様にパクラの良さを再確認し、2年前に0.45用もパクラにしようと考え、マグナム1200をまず1台導入してみました。

やはり、故障も少なく現場を止めないため揚重現場でも安心でき、オペレーターもサカトのパクラの方が使いやすいと言っています。導入効果も確かめられたので、その後5台購入して、今は6台まで増やしました。0.45クラスとは言え、近年の都心の解体現場は高強度のコンクリートの構造物が増えておりますから、やはりパクラで正解でした。

「純正部品へのこだわり」

また、パクラをショベルに取付けるピンやスリーブにもこだわっています。「現場でこんなところを故障させたらプロとして恥ずかしい」という思いがあるので、精度や材質がしっかりしているサカトの純正部品を揃える様にしています。部品自体の耐摩耗性も高く、パクラ本体の耐久性にも直結します。折損がない事は重要です。ピンが現場で折れたら作業が中断したり、摩耗したらガタついて騒音になったりと、現場や周囲に迷惑をかけてしまいます。ひいては作業効率を上げるということの障害になるでしょう。長年の経験でこうした結論に至っています。結局純正品としてきちんと設計開発されている部品が利益をもたらすのです。

余談ですが、取付ピン装着時に作業員にわかりやすいように六角ボルト差し込み穴の向きに印がつけてあるのも大変助かっています。こうした細かい事でも、サカトは使う人の立場になってものづくりしているのが伝わってきます。

今後も都心の再開発はまだ多いようです。その中で、やはりアキコはいいなとお客様にご指名いただけるように、常に向上心を持ち、良い道具と共に頑張っけてゆきます。



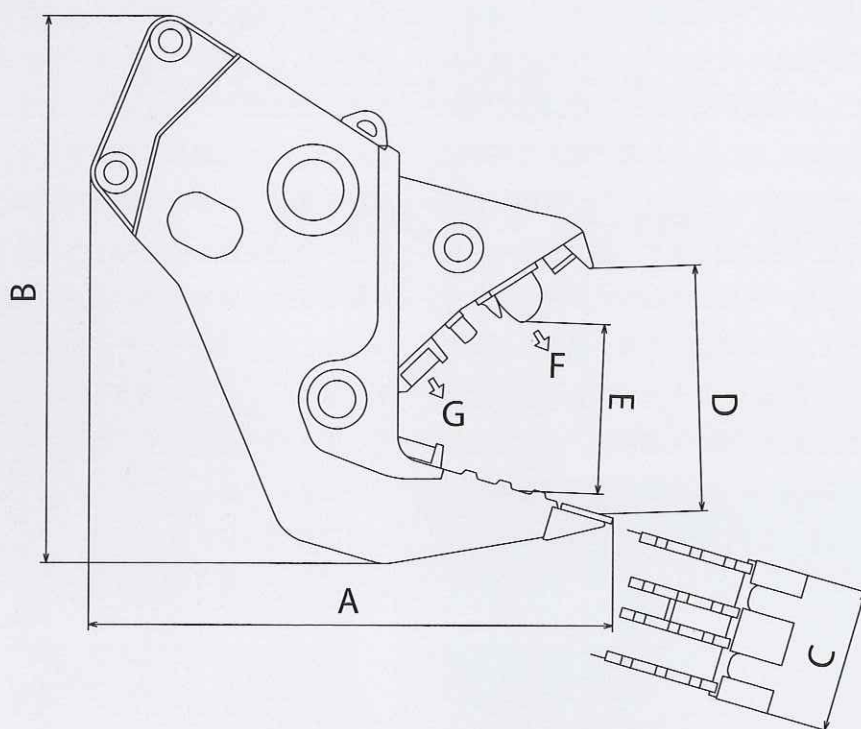
お問合せ 電話番号 048-458-2020

PACLER MAGNUM 仕様

		兼用機	兼用機	兼用機	兼用機			兼用機
PACLER MAGNUM		4500	3200v	2500v	1650v	1300v	1200v	800v
適合ショベル	tons	45～100	30～45	23～35	20～23	12～23	10～12	7～12
質量	kg	4890	3280	2700	1750	1450	1200	810
A) 全長	mm	2761	2612	2304	1894	1767	1723	1434
B) 全高	mm	2847	2479	2399	1965	1652	1650	1449
C) 全幅	mm	722	670	640	510	510	470	420
D) 先端部開口幅	mm	1470	1285	1000	900	890	726	608
E) FB部開口幅	mm	1012	960	640	610	583	480	370
F) 破碎力	tons	130	115	90	76	58	55	40
G) 切断力	tons	270	253	198	170	123	140	85
カッター長	mm	280	280	280	140	140	140	150
最大設定圧力	kgf/cm ²	320	320	320	320	320	300	280
増速バルブ		標準装備	標準装備	標準装備	標準装備	標準装備	標準装備	標準装備

■取付の際には、当該ショベルの装着可能質量をご確認ください。 ■生産性向上設備投資促進税制対象機種については、お問い合わせください。 ■仕様は予告なく変更する場合があります。

2015.03 PACLER01



兼用機 独自の軽量化技術による2クラス兼用機ラインナップ!

SAKATO

<http://www.sakato.jp>

<製造元> 株式会社坂戸工作所

本社・工場 〒262-0012 千葉県千葉市花見川区千種町314番地
TEL (043)259-0131 FAX (043)257-5369
E-mail : info@sakato.jp

<販売元> 株式会社サカト商工

本 社 〒262-0012 千葉県千葉市花見川区千種町314番地
TEL(043)286-5400 FAX(043)286-4187
E-mail : mail@sakato.jp

2次解体用/コンクリート小割機

PACLER MAGNUM



SAKATO